

平成 29・30 年度大牟田市自然環境調査報告書

三池山地区 調査



三池山の自然

令和元年 12 月
大牟田市

はじめに

本市では、自然環境の保全を重要な課題として本市の自然環境の現状や貴重な動植物等の生息状況を調査し、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民の啓発に資するために自然環境調査を行っています。

本報告書は、平成 29・30 年度に、三池山地区の自然環境調査を実施したものを取りまとめたものです。

目 次

| | | |
|-----|-------------|----|
| 1 | 調査目的 | 1 |
| 2 | 調査分野と調査実施期間 | 1 |
| 3 | 調査区域 | 2 |
| 4 | 調査方法 | 3 |
| 5 | 調査結果 | 4 |
| (1) | 地層・地質 | 4 |
| (2) | 植物 | 10 |
| (3) | 鳥類 | 25 |
| (4) | 昆虫類・クモ類 | 27 |
| (5) | は虫類・両生類 | 34 |
| (6) | ほ乳類 | 36 |
| (7) | 魚介類・菌類 | 37 |
| (8) | その他 | 39 |
| 6 | まとめ | 40 |

1 調査目的

本調査は、大牟田市第2次環境基本計画（平成24年3月）に基づくグリーンセンサス（定期的な自然環境調査）のフォローアップ調査として、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民・事業者等の啓発に資するため実施した。

2 調査分野と調査実施期間

調査の対象とする分野と主として担当する自然環境調査研究専門委員は表1のとおりとした。調査は秋期、春期、夏期の3回行った。ただし、地層・地質は1回のみ行った。

表1. 調査分野と担当専門委員

| 分 野 | 担当専門委員 | 秋期調査 | 春期調査 | 夏期調査 |
|---------|--------|-----------|----------|----------------------|
| 地層・地質 | 古藤 文彦 | — | H30.3.23 | — |
| 植 物 | 中島 健晴 | H29.11.25 | H30.4.26 | H30.9.27 |
| 鳥 類 | 永江 和彦 | H29.11.28 | H30.5.11 | H30.9.27 |
| 昆虫類・クモ類 | 中嶋 秀利 | H29.11.28 | H30.5.11 | H30.7.28 H30.9.27 |
| は虫類・両生類 | 松永 公幸 | H29.11.15 | H30.4.28 | H30.7.15 |
| ほ 乳 類 | 尾形 健二 | H29.11.28 | H30.5.11 | H30.10.2 |
| 魚介類・菌類 | 嶺井 久勝 | H29.11.28 | H30.5.11 | H30.9.27 |

3 調査区域

調査区域は、乙宮林道終点から普光寺まで、三池山4峰を縦走するルートとした(図1)。

三池山は本市最高峰(標高388.0m)の山であり南北に伸びる4つの峰を持つ。乙宮林道終点から登山を始めるとすぐに一つ目のピーク(標高359m)に至る。そこから北へ向かって順に茶臼山(約380m)、三池山山頂(標高388.0m)、三池宮(標高366m)と峰が連なる。

なお、本調査区域は平成18年度にも調査が行われており、当時の報告書では『大牟田の宝もの100選』[1]から引用して、調査区域の概要を以下のように紹介している。

三池山は標高388メートル、市内で一番高い山である。四季折々、私たちにさまざまな姿を見せてくれる。春になると、年末に野焼きされていた茶臼原の草原一面に若草が萌えてくる。1978年から整備された生活環境保全林では、白いコブシの花や赤いヤブツバキ(大牟田市の花)が咲く。やがてスダジイやクスノキなどの新緑があざやかに全山を覆う。

夏が来れば、クヌギ(大牟田市の木)の樹液を求めてカブトムシやクワガタムシが飛び交う。また、ホトトギス、オオルリ、サンコウチョウなどの夏鳥も毎年繁殖に渡ってくる。

秋が訪れた遊歩道を行くと、アケビのおいしそうな実が樹間に見つかり、足元ではリンドウの可憐な花たちに出会うこともある。冬の夜には、暗闇の中からフクロウの不気味な声が聞こえ、ムササビが木立ちの間を滑空し、タヌキが獣道を歩く。

三池山には、植物906種、野鳥68種、昆虫はアカスジキンカメムシ、トゲマグソコガネなどの珍種が見られ、多様性に富んだ自然が残されている。

スギ、ヒノキ、竹林などの林業資源も豊富だ。木材価格の低迷と労働力不足のため荒廃している山林が見受けられるのが残念だ。しかし、樹齢百年近い貴重なクスノキ群も見られる。「福岡県森林浴百選」にも選ばれ、市民には手頃のハイキングコースである。茶臼原からは阿蘇、雲仙、多良岳の眺望もよく、元旦には初日の出を拝む人も多い。三池山の地質は中生代の花崗岩で、白黒模様の岩があちこちで露出している。尾根を境に東側は熊本県南関町である。

三池宮にはツガニ伝説で有名な三つの池がある。玉姫様を襲う大蛇をツガニ(サワガニ)[注1]がハサミで三つに切り、その血が三つの池になったというもので、三池の地名の由来にもなっている。中世の豪族三池氏の山城の跡であることを物語る石垣が三池宮に現在も残されている。

三池山は、水源の森、土砂流出防備保安林として、市民生活に大切な公益的機能を果たしている。市民の心のふるさととして、その緑を永遠に守っていきたい。(松永)[注2]

[1] 大牟田市役所主査・主任会編、大牟田の宝もの100選、海鳥社、2002。

[注1] ツガニは一般的にモクズガニを指すが、現在のツガニ伝説におけるツガニはサワガニのイメージで伝えられている。

[注2] 引用文は松永公幸氏(現大牟田市自然環境調査研究専門委員)が執筆



図1. 調査区域見取図

4 調査方法

調査は現地調査を基本とし、必要に応じて補足調査として聴き取り調査や文献調査等を行うこととした。

確認された生物種は分野ごとに一覧表にまとめた。表中備考欄に記載した記号の意味は以下のとおり。

表2. 表中で使用した記号の意味

| 記号 | 用語 | 意味 |
|------|-----------|--|
| I A類 | 絶滅危惧 I A類 | ごく近い将来での絶滅の危険性が極めて高い種。 |
| I B類 | 絶滅危惧 I B類 | I A類ほどではないが、近い将来での絶滅の危険性が高い種。 |
| II類 | 絶滅危惧 II類 | 絶滅の危険が増大しており、将来的に絶滅のおそれのある種。 |
| 準絶 | 準絶滅危惧 | 当面絶滅のおそれはないが、その傾向が強まっている種。 |
| (国) | 環境省レッドリスト | 環境省レッドリストを示す。 |
| (県) | 福岡県レッドデータ | 福岡県レッドデータを示す。 |
| 特外 | 特定外来生物 | 外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもので、国が指定したもの。 |
| 植物のみ | 木 | 木本類 「木本類」の略。木本類とは、形成層が発達し木質化するもので、おおまかにいえば年輪を有するもの。ただし、例外として竹の仲間やつる性のもので年輪が無く、形成層が無くとも木本とするものがある。 ⇨草本類は、形成層が無い、あるいはあまり発達せず木質化しないもの。「木」の記載がないものは全て草本類。 つる性植物については、木質化するものを木本類とし、それ以外を草本類とした。 竹については、諸説あるので木本類とはしなかった。 |
| | 外 | 外来植物 人為的に本来生息しない地域に持ち込まれた植物。国内に移入された年代は諸説あるため統一された学会の見解は無いが、ここでは史前帰化と思われるものは含めないこととした。 |
| | 逸 | 植栽逸出 人為的に植栽されたものが、野生化して繁殖したもの。外来種については逸出を含め外来種として纏め、在来種の逸出のみを表示した。 |

5 調査結果

(1) 地層・地質

三池山体をなす岩石は花崗閃緑岩であり、風化したマサは透水性が高いため三池山の山頂に見られるような貯水部は成立しにくい土壌と言える。

山頂に貯水部がみられるのは、三池宮の山稜部が赤崎層群銀水層の透水性が低い土壌からなっているためと思われる。銀水層は基盤岩である玉名花崗閃緑岩を不整合に覆っており、大牟田地域の古第三紀層の基底をなす地層である。

米の山断層の活動により断層東側の部分がせり上がったため、本来は地下にある地層が、三池山体の三池宮や三池山標高点設置点などの山稜部に局所的にみられる。

断層活動によりせり上がった当初は存在していたと思われる銀水層より上位の地層は、侵食によりはく奪され、残丘部として残った部分が、現在三池宮や三池山標高点設置点などの山稜部にみられる銀水層である。

表3. 確認された地層・地質

| 茶臼山山稜部 | |
|---|--|
|  <p style="text-align: center;">茶臼山山稜部</p> | <p>三角点設置点の三池山より明らかに高く、大牟田市域で最も標高が高い部分と言える。</p> |
|  <p style="text-align: center;">茶臼山山腹から南方向</p> | <p>小岱山(筒ヶ岳花崗岩からなる)や木の葉の採石場、金峰山三の岳をのぞむ。</p> |

表3. 確認された地層・地質

| 茶臼山山稜部 | |
|---|---|
|  <p>山頂付近のコアストーン群</p> | <p>稜線には赤崎層群銀水層の基盤岩である玉名花崗閃緑岩のコアストーンがみられる。</p> <p>[銀水層] 古第三期層の基底層で筑後変成岩類、玉名花崗岩類を基盤として、これを不整合に覆っている。</p> <p>[基盤岩] その地域における最も古い岩石。</p> <p>[花崗閃緑岩] 火成岩の一つ。花崗岩よりやや暗い灰白色で、細粒から粗粒の深成岩。花崗岩と石英閃緑岩の中間にあり、斜長石、カリ長石、石英、黒雲母、角閃石などを主成分とする。貫入岩体として産する。</p> <p>[コアストーン] 花崗岩が風化する過程で内部に残る岩塊。</p> |
|  <p>山頂付近のコアストーン群</p> | <p>玉名花崗閃緑岩のコアストーンは、主として黒色部は角閃石＞黒雲母からなり、白色部は長石、石英からなっている。</p> <p>(黒い丸い物体はカメラのレンズカバー、以下の写真も同じ。)</p> |
|  <p>花崗閃緑岩（コアストーン）中の暗色含有物</p> | <p>[角閃石] 酸性火成岩、変成岩の重要な造岩鉱物の一群で、日本で産出するのは約30種類である。</p> <p>[黒雲母] 雲母の一種である鉱物。鱗状または六角状の結晶。薄くはがれやすく黒緑色ないし黒褐色のガラス状光沢がある。火成岩・変成岩の造岩鉱物として広くみられる。</p> |
|  <p>花崗閃緑岩中の鉱物</p> | |

表3. 確認された地層・地質

| 三池山山稜部 | |
|--|---|
|  <p>三角点設置点の赤崎層群銀水層</p> | <p>赤崎層群銀水層は基盤岩である玉名花崗閃緑岩を不整合に覆っており、大牟田地域の古第三紀層の基底をなす地層である。</p> <p>[古第三紀] 地質時代区分の一つで、約 6500 万年前から 2400 万年前までの期間。</p> |
|  <p>三角点設置山頂部の赤崎層群銀水層</p> | <p>礫が顕著である。角礫で淘汰が悪い。 雨水によって層理面の弱線が顕著になっている。</p> <p>[層理面] 互いに重なり合った各地層の接触面をいい、単層と単層の間の境界線。</p> |
|  <p>三角点設置点北北西の鞍部</p> | <p>三池山三角点設置点北北西の鞍部(マムシ谷分岐点)付近で見られる赤崎層群銀水層(礫が顕著に見られる)。</p> <p>[鞍部] 山と山の間の低くなった所。また、山の尾根で、馬の鞍(くら)のようにくぼんでいる所。</p> |
|  <p>上写真の上部</p> | <p>シルト質の部分、透水性が低く、こうした地層が三池宮山稜部の貯水部の形成に関与しているとも考えられる。露頭の配置からすると、赤崎層群銀水層は基盤である玉名花崗閃緑岩にアバットしていると思われる。</p> <p>[シルト] 砂と粘土の中間の大きさの細粒堆積物。 [アバット] より古い時代の地層の作る高角な不整合面に、より新しい時代の地層が水平にぶつかるように堆積して形成される不整合の形態。</p> |

表3. 確認された地層・地質

| 三池山～三池宮の稜線部 | |
|---|---|
|  | <p>花崗岩によくみられる割れ方をしている。</p> |
| 三池宮と三角点設置点の間にある山稜部のコアストーン | |
| マムシ谷 | |
|  | <p>急斜面から緩斜面になってくる所であり、母岩の露出は見られない。 コアストーン由来の、割れて比較的小さめの岩体とその間をうずめる花崗閃緑岩が風化したマサからなっている。</p> <p>[母岩] 土砂になる前の、もとの岩石。</p> <p>[マサ] 花崗岩などの風化が進んで砂状・土状になったもの。(マサ土)</p> |
| 標高 150m付近のゴー口帯 | |
|  | <p>傾斜が緩くなってくると地下水が表面にきて、マサの表層に水の流れがみられるようになってくる。</p> |
| 同上 | |

表3. 確認された地層・地質

| 三池宮登山道 | |
|--|--|
|  <p>標高 150~200m付近</p> | <p>マサ化(花崗岩の風化の特徴)によるマサ。三池山体のいたるところで見られる。</p> |
|  <p>標高 200m付近</p> | <p>玉名花崗閃緑岩の母岩がみられる。節理が顕著で左側にはアプライトが貫入している。</p> <p>登山道の右側斜面は風化されておりマサである。</p> <p>〔節理〕 地層や岩石の中の割れ目のうち、ズレを伴わないもの。ズレを伴う断層と区別する。</p> <p>〔アプライト〕 細粒花崗岩の一種。細粒緻密、優白色。顕微鏡下で見ると砂糖が集合したように見える組織を持つ岩石。</p> |
|  <p>標高 200m付近</p> | <p>風化して脆くなった玉名花崗閃緑岩の母岩部分。</p> <p>有色鉱物の鉄成分は溶脱し、水酸化鉄となり長石部分を淡褐色に変色させている。</p> |
| 日明地区上流部 | |
|  <p>風化変質した黒雲母の堆積部</p> | <p>風化して変質した黒雲母(金色の光沢をなし、「猫の金」と呼ばれる)は流水により運搬されて、写真のような堆積部をつくったりする。</p> |

表3. 確認された地層・地質

| 三池宮山稜部 | |
|---|---|
|  <p style="text-align: center;">三池宮山稜部</p> | <p>写真のような貯水部がみられるのは、三池宮の山稜部が赤崎層群銀水層の透水性が低い土壤からなっているためと思われる。</p> |
|  <p style="text-align: center;">三池宮の山稜部の赤崎層群銀水層</p> | <p>礫岩</p> <p>[礫] 粒径が2mm以上の砕屑物。</p> <p>[礫岩] 堆積岩の一種で、礫が砂質・泥質・石灰質などの基質によってくっつき、固められてできた岩石。</p> |
| 土穴地区 | |
|  <p style="text-align: center;">阿蘇4火砕流堆積物 溶結部</p> | <p>柱状節理がみられる。</p> <p>[柱状節理] 岩体に入った断面の形が六角形ないし三角形の柱状の割れ目で、マグマの固結冷却に伴う体積の収縮によって生じる。</p> |
|  <p style="text-align: center;">阿蘇4火砕流堆積物 強溶結部</p> | <p>柱状節理が上の露頭より顕著である。</p> <p>[阿蘇4火砕流堆積物] 現在の阿蘇の地形の原型となるカルデラの形成にあずかった大規模な火山噴火によってもたらされた地層のうち、噴出年代のもっとも新しいもの。</p> <p>[阿蘇火砕流の噴出年代] 今からおよそ30万年前から8～9万年前と考えられている。</p> |

(2) 植物

植物のうち、種子植物及びシダ植物を対象として調査を行った。

合計 15 科 53 種のシダ植物、94 科 403 種の種子植物が確認された。

表 4. 植物の調査結果

| | | のべ | | 秋期 | | 春期 | | 夏期 | |
|------|------|------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 分類群 | | 科 | 種 | 科 | 種 | 科 | 種 | 科 | 種 |
| シダ植物 | | 15 | 53 | 15 | 38 | 14 | 41 | 14 | 34 |
| 種子植物 | 裸子植物 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 被子植物 | 双子葉類 | 206 | 離弁花類 | 141 | 50 | 142 | 45 | 146 |
| | | 合弁花類 | | 79 | 24 | 79 | 24 | 79 | |
| | 単子葉類 | 77 | 10 | 47 | 10 | 39 | 9 | 54 | |
| | 小計 | 403 | 83 | 268 | 84 | 260 | 79 | 280 | |
| 合計 | 109 | 456 | 98 | 306 | 98 | 301 | 93 | 314 | |

表 5. 確認された主な野生生物 (植物)

| 和名 | 種類 |
|---|--|
|  <p>アオカズラ</p> | <p>国:絶滅危惧ⅠB類 県:絶滅危惧ⅠB類</p> <p>山地林内・林縁に生育する落葉性のツル性木本。新しい茎は緑色で無毛、古い茎には葉柄が変化した鋸状のトゲがある。</p> <p>(出典:福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-)</p> |
|  <p>ゴマノハグサ</p> | <p>国:絶滅危惧Ⅱ類 県:絶滅危惧Ⅱ類</p> <p>直立する茎を持つ中型～大型の多年草。葉は対生、長卵型で鋸歯がある。茎の先が穂状の花序となり、淡緑色の花を密につける。</p> <p>(出典:福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-)</p> |

表5. 確認された主な野生生物（植物）

| 和名 | 種類 |
|---|---|
|  <p data-bbox="480 741 571 768">ツチグリ</p> | <p data-bbox="863 302 1262 329">国:絶滅危惧Ⅱ類 県:絶滅危惧Ⅱ類</p> <p data-bbox="863 383 1350 647">日当たりの良い草原に生育する多年草。1950年代初頭にはやや普通に生育していた種であるが、1970年代中頃にはやや稀な植物となっていたようである。近年では、二次草原の数カ所で生育が確認されているだけとなった。多数の個体が現存している生育地もあるが、個体数は減少傾向にある生育地が多い。</p> <p data-bbox="839 701 1350 768">(出典:福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-)</p> |
|  <p data-bbox="480 1346 571 1373">シバハギ</p> | <p data-bbox="863 969 1054 996">県:絶滅危惧ⅠB類</p> <p data-bbox="863 1050 1350 1238">草地に生える多年草。『福岡県植物目録』(1952)では「やや普通」、『福岡県植物誌』(1975)では「やや稀」とされているが、現在では稀な植物となっている。里山の草地が減少したことに伴い、減少した。</p> <p data-bbox="839 1292 1350 1359">(出典:福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-)</p> |
|  <p data-bbox="480 1962 571 1989">リンドウ</p> | <p data-bbox="863 1547 1038 1574">県:絶滅危惧Ⅱ類</p> <p data-bbox="863 1628 1350 1852">二次草原、山地稜線草地、若齢二次林内や林縁、ため池堤防、山地の水田畦畔などに生育する多年草。自生地は県内全域に広く見られ、多数個体が生育している場所もあるが、開発行為、草原の遷移、園芸用の採取などにより個体数が減少、あるいは消滅した場所もある。</p> <p data-bbox="839 1906 1350 1973">(出典:福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-)</p> |

表5. 確認された主な野生生物（植物）

| 和名 | 種類 |
|--|---|
|  <p data-bbox="432 629 616 658">トラノオスズカケ</p> | <p data-bbox="852 295 1050 324">県:絶滅危惧 I A 類</p> <p data-bbox="852 376 1337 483">茎の長さ70~150cmの地面を這うつる性の多年草。林下、林縁の道路沿いに自生しているため、草刈りの際刈り取られる恐れがある。</p> <p data-bbox="826 535 1350 602">(出典:福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-)</p> |
|  <p data-bbox="451 1133 592 1162">カラタチバナ</p> | <p data-bbox="852 795 1050 824">県:絶滅危惧 I B 類</p> <p data-bbox="852 875 1337 943">暖温帯林に生える常緑低木。県内では個体数が減少傾向にあると考えられる。</p> <p data-bbox="826 994 1350 1061">(出典:福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-)</p> |

表6. 確認された植物

No. 1

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|-------------|------------|--------|-------|-------|----|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| シダ植物 15科53種 | | | | | |
| イノモトソウ科 | アムクサシダ | ○ | ○ | ○ | |
| | イノモトソウ | ○ | ○ | ○ | |
| | オオバノイノモトソウ | ○ | ○ | | |
| イワデンダ科 | シケチシダ | ○ | ○ | ○ | |
| | ノコギリシダ | | | ○ | |
| | ヘラシダ | ○ | ○ | | |
| イワヒバ科 | タチクラマゴケ | ○ | ○ | | |
| ウラジロ科 | ウラジロ | ○ | ○ | ○ | |
| | コシダ | | ○ | | |
| ウラボシ科 | クリハラン | ○ | ○ | | |
| | ノキシノブ | ○ | ○ | ○ | |
| | ヒトツバ | | ○ | | |
| | マメツタ | ○ | ○ | ○ | |

表6. 確認された植物

No. 2

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|-----------|-----------|--------|-------|-------|----|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| シダ植物 (続) | | | | | |
| ウラボシ科 (続) | ミツデウラボシ | ○ | ○ | ○ | |
| オシダ科 | イノデ | ○ | ○ | ○ | |
| | イノデモドキ | ○ | ○ | ○ | |
| | イワヘゴ | | ○ | | |
| | オオイタチシダ | | ○ | | |
| | オクマワラビ | ○ | ○ | ○ | |
| | オニカナワラビ | ○ | ○ | | |
| | オニヤブソテツ | | | ○ | |
| | キヨスミヒメワラビ | | ○ | ○ | |
| | クマワラビ | ○ | ○ | ○ | |
| | コバノカナワラビ | ○ | ○ | ○ | |
| | ツクシイワヘゴ | | ○ | | |
| | テリハヤブソテツ | ○ | | | |
| | ベニシダ | ○ | ○ | ○ | |
| | ホソバカナワラビ | ○ | ○ | ○ | |
| | マルバベニシダ | ○ | | ○ | |
| | ミヤマノコギリシダ | | ○ | | |
| | ヤブソテツ | ○ | | ○ | |
| | ヤマイタチシダ | | ○ | | |
| ヤマヤブソテツ | | ○ | | | |
| コバノイシカグマ科 | イヌシダ | ○ | ○ | | |
| | フモトシダ | ○ | ○ | ○ | |
| | ワラビ | ○ | ○ | ○ | |
| シシガシラ科 | オオカグマ | ○ | ○ | ○ | |
| ゼンマイ科 | ゼンマイ | ○ | ○ | ○ | |
| チャセンシダ科 | トラノオシダ | ○ | ○ | ○ | |
| ハナヤスリ科 | オオハナワラビ | ○ | ○ | ○ | |
| | フユノハナワラビ | ○ | | | |
| ヒメシダ科 | ゲジゲジシダ | | | ○ | |
| | コハシゴシダ | ○ | ○ | | |
| | ハリガネワラビ | | | ○ | |
| | ヒメワラビ | | ○ | ○ | |
| | ホシダ | ○ | | ○ | |
| | ミゾシダ | ○ | ○ | ○ | |
| | ミドリヒメワラビ | ○ | | | |
| フサンダ科 | カニクサ | ○ | | ○ | |
| ホウライシダ科 | イワガネゼンマイ | ○ | ○ | | |
| | イワガネソウ | | | ○ | |

表6. 確認された植物

No. 3

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|----------------|---------|--------|-------|-------|---------------|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| シダ植物 (続) | | | | | |
| ホウライシダ科 (続) | タチシノブ | ○ | ○ | ○ | |
| ホングウシダ科 | ホラシノブ | ○ | ○ | ○ | |
| 種子植物 | | | | | |
| └─裸子植物 1科1種 | | | | | |
| イヌガヤ科 | イヌガヤ | ○ | | ○ | 木 |
| └─被子植物 | | | | | |
| └─双子葉類 | | | | | |
| └─離弁花類 55科206種 | | | | | |
| アカザ科 | シロザ | ○ | ○ | ○ | |
| アカバナ科 | ミズタマソウ | ○ | | ○ | |
| アケビ科 | アケビ | ○ | | ○ | 木 |
| | ミツバアケビ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ムベ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| アブラナ科 | ジャニンジン | ○ | ○ | | |
| | タネツケバナ | | ○ | | |
| | ヤマハタザオ | | ○ | | |
| アリノトウグサ科 | アリノトウグサ | | ○ | | |
| アワブキ科 | アオカズラ | | | ○ | 木(国)(県)絶滅危惧IB |
| | ヤマビワ | | | ○ | 木 |
| イイギリ科 | クストイゲ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| イラクサ科 | アオミズ | ○ | | ○ | |
| | イワガネ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | カラムシ | ○ | ○ | ○ | |
| | キミズ | ○ | ○ | ○ | |
| | コアカソ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ヤブマオ | | ○ | ○ | |
| ウコギ科 | ウド | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | オカウコギ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | カクレミノ | | ○ | | 木 |
| | キツタ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ヤツデ | ○ | ○ | | 木 |
| ウリ科 | アマチャヅル | | ○ | ○ | |
| | カラスウリ | ○ | | ○ | |
| | キカラスウリ | | | ○ | |
| ウルシ科 | ヌルデ | | | ○ | 木 |
| | ハゼノキ | | ○ | ○ | 木 |
| カエデ科 | イロハカエデ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | トウカエデ | ○ | ○ | | 木・外 |

表6. 確認された植物

No. 4

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|------------|----------|--------|-------|-------|-----|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| └─離弁花類 (続) | | | | | |
| カタバミ科 | オッタチカタバミ | | | ○ | 外 |
| | カタバミ | ○ | ○ | | |
| | ハナカタバミ | ○ | | | 外 |
| | ムラサキカタバミ | ○ | | | 外 |
| カツラ科 | カツラ | | ○ | | 木・逸 |
| キンポウゲ科 | アキカラマツ | ○ | ○ | ○ | |
| | ウマノアシガタ | ○ | ○ | ○ | |
| | コバノボタンヅル | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | サラシナショウマ | ○ | ○ | ○ | |
| | センニンソウ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ヒメウズ | ○ | ○ | | |
| | ボタンヅル | ○ | ○ | ○ | 木 |
| クスノキ科 | イヌガシ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | カゴノキ | | | ○ | 木 |
| | クスノキ | ○ | | ○ | 木 |
| | シロダモ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | タブノキ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ヤブニッケイ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | アキグミ | ○ | | ○ | 木 |
| グミ科 | ウラギンツルグミ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ツルグミ | ○ | ○ | | 木 |
| | ナツグミ | | ○ | | 木 |
| | ナワシログミ | ○ | | ○ | 木 |
| | ネコノチチ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| クワ科 | イタビカズラ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | イヌビワ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | オオイタビ | | | ○ | 木 |
| | クワ | | | ○ | 木 |
| | クワクサ | ○ | | ○ | |
| | ツルコウゾ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ヤマグワ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| ケシ科 | シラユキゲシ | ○ | ○ | | 外 |
| | ムラサキケマン | | ○ | | |
| コショウ科 | フウトウカズラ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| シキミ科 | シキミ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| スミレ科 | コスミレ | | | ○ | |
| | スミレ | ○ | ○ | ○ | |
| | タチツボスミレ | ○ | ○ | ○ | |

表6. 確認された植物

No. 5

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|------------|-------------|--------|-------|-------|-------------|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| └─離弁花類 (続) | | | | | |
| スマレ科 (続) | ツボスミレ | | ○ | | |
| | ナガバナタチツボスミレ | | ○ | | |
| | ヒメスミレ | | | ○ | |
| セリ科 | ウマノミツバ | ○ | ○ | ○ | |
| | オオチドメ | | | ○ | |
| | オオバチドメ | ○ | ○ | ○ | |
| | セントウソウ | ○ | ○ | ○ | |
| | チドメグサ | ○ | | | |
| | ツボクサ | ○ | | | |
| | ノダケ | ○ | ○ | ○ | |
| | ノチドメ | ○ | ○ | | |
| | ミツバ | | ○ | | |
| | ヤブジラミ | ○ | ○ | | |
| | ヤブニンジン | | ○ | | |
| センダン科 | センダン | | | ○ | 木 |
| センリョウ科 | センリョウ | ○ | | ○ | 木 |
| タデ科 | イシミカワ | ○ | ○ | ○ | |
| | イヌタデ | ○ | | ○ | |
| | オオイヌタデ | | | ○ | |
| | ギンミズヒキ | | | ○ | |
| | シンミズヒキ | | | ○ | |
| | スイバ | ○ | ○ | ○ | |
| | ハナタデ | ○ | | ○ | |
| | ママコノシリヌグイ | | | ○ | |
| ミズヒキ | ○ | ○ | | | |
| ツツラフジ科 | アオツツラフジ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| ツバキ科 | サカキ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | サザンカ | ○ | ○ | ○ | 木 (県) 準絶滅危惧 |
| | チャノキ | ○ | ○ | | 木 |
| | ヒサカキ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ヤブツバキ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| トウダイグサ科 | アカメガシワ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | エノキグサ | | | ○ | |
| | コニシキソウ | | | ○ | 外 |
| | コミカンソウ | | | ○ | |
| | ナンキンハゼ | ○ | | ○ | 木・外 |
| | ヤマアイ | ○ | ○ | ○ | |
| ドクダミ科 | ドクダミ | ○ | ○ | | |

表6. 確認された植物

No. 6

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|------------|-----------|--------|-------|-------|--------------|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| └─離弁花類 (続) | | | | | |
| トチノキ科 | トチノキ | ○ | ○ | | 木・逸 |
| ナデシコ科 | ウシハコベ | ○ | | | |
| | オランダミミナグサ | ○ | ○ | | 外 |
| | カワラナデシコ | | ○ | | |
| | ケフシグロ | ○ | ○ | | |
| | コハコベ | | ○ | | 外 |
| | ナンバンコハコベ | | ○ | ○ | |
| | フシグロ | | ○ | | |
| | ミミナグサ | ○ | ○ | | |
| ニガキ科 | ニガキ | | ○ | ○ | 木 |
| ニシキギ科 | コマユミ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ツルウメモドキ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ツルマサキ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | マサキ | ○ | ○ | | 木 |
| | マユミ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| バラ科 | オヘビイチゴ | ○ | ○ | ○ | |
| | カマツカ | ○ | | | 木 |
| | キジムシロ | ○ | ○ | ○ | |
| | キンミズヒキ | ○ | ○ | ○ | |
| | クサイチゴ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | シャリンバイ | | | ○ | 木 |
| | ダイコンソウ | ○ | ○ | | |
| | ツチグリ | | ○ | | (国)(県)絶滅危惧Ⅱ類 |
| | テリハノイバラ | | ○ | | 木 |
| | ナガバモミジイチゴ | ○ | ○ | | 木 |
| | ナワシロイチゴ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ノイバラ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ヒメキンミズヒキ | | | ○ | |
| | ヒメバライチゴ | ○ | | ○ | 木 |
| | ビロードイチゴ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | フユイチゴ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ヘビイチゴ | | | ○ | |
| | ミヤマフユイチゴ | | | ○ | |
| | ヤブヘビイチゴ | ○ | ○ | ○ | |
| | ヤマザクラ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| ビャクダン科 | カナビキソウ | ○ | ○ | ○ | |
| ヒユ科 | イノコヅチ | ○ | | | |
| | ヒカゲイノコヅチ | | | ○ | |

表6. 確認された植物

No. 7

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|------------|-----------|--------|-------|-------|--------------|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| └─離弁花類 (続) | | | | | |
| フウロソウ科 | アメリカフウロ | ○ | ○ | | 外 |
| | ゲンノショウコ | ○ | | ○ | |
| ブドウ科 | エビヅル | | | ○ | 木 |
| | ツタ | | ○ | ○ | 木 |
| | ノブドウ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ヤブガラシ | ○ | ○ | ○ | |
| ブナ科 | アカガシ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | アラカシ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | イチイガシ | ○ | ○ | ○ | 木・逸 |
| | ウバメガシ | | ○ | ○ | 木・逸 |
| | クヌギ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | クリ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | コナラ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | シリブカガシ | | | ○ | 木 |
| | スダジイ | | ○ | | 木 |
| | ツブラジイ | ○ | | | 木 |
| | マテバシイ | ○ | | | 木 |
| ベンケイソウ科 | コモチマンネングサ | ○ | ○ | | |
| マツブサ科 | サネカズラ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| マメ科 | カスマグサ | | ○ | | |
| | カワラケツメイ | ○ | | | |
| | クズ | ○ | ○ | ○ | |
| | コマツナギ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | コメツブツメクサ | | ○ | | 外 |
| | シバハギ | | | ○ | 木(県) 絶滅危惧IB類 |
| | シロツメクサ | | ○ | | 外 |
| | スズメノエンドウ | | ○ | | |
| | タヌキマメ | ○ | | ○ | |
| | タンキリマメ | | | ○ | |
| | ナツフジ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ニシキハギ | ○ | | ○ | 木 |
| | ヌスビトハギ | ○ | | | |
| | ネコハギ | | ○ | | |
| | ネムノキ | ○ | | ○ | 木 |
| | ノアズキ | ○ | ○ | ○ | |
| | ノササゲ | ○ | | ○ | |
| | ハイメドハギ | | | ○ | |
| | メドハギ | ○ | ○ | ○ | |

表6. 確認された植物

No. 8

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|-----------------|-----------|--------|-------|-------|-----|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| └─離弁花類 (続) | | | | | |
| マメ科 (続) | ヤハズエンドウ | ○ | ○ | | |
| | ヤハズソウ | ○ | | ○ | |
| | ヤブハギ | | | ○ | |
| | ヤブマメ | | | ○ | |
| | ヤマハギ | ○ | ○ | | 木 |
| | ヤマフジ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| マンサク科 | イスノキ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| ミカン科 | カラスザンショウ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| ミズキ科 | クマノミズキ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ナンゴクアオキ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| ミツバウツギ科 | ゴンズイ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| メギ科 | ナンテン | ○ | ○ | | 木 |
| モクレン科 | コブシ | | ○ | | 木・逸 |
| モチノキ科 | イヌツゲ | ○ | | ○ | 木 |
| | クロガネモチ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ナナミノキ | | ○ | ○ | 木 |
| ヤマゴボウ科 | ヨウシュヤマゴボウ | ○ | ○ | ○ | 外 |
| ヤマモモ科 | ヤマモモ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| ユキノシタ科 | イワガラミ | | | ○ | 木 |
| | コガクウツギ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ノリウツギ | | | ○ | 木 |
| | ヤマネコノメソウ | | ○ | | |
| ユズリハ科 | ヒメユズリハ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ユズリハ | ○ | ○ | | 木 |
| └─被子植物 | | | | | |
| └─双子葉類 | | | | | |
| └─合弁花類 28科 119種 | | | | | |
| アカネ科 | アカネ | ○ | ○ | ○ | |
| | アリドオシ | | ○ | | 木 |
| | カギカズラ | | | ○ | 木 |
| | キクムグラ | ○ | ○ | ○ | |
| | クチナシ | | | ○ | 木 |
| | ヘクソカズラ | ○ | | | |
| | ヤエムグラ | ○ | ○ | | |
| | ヨツバムグラ | | ○ | | |
| イチヤクソウ科 | ギンリョウソウ | | ○ | | |
| エゴノキ科 | エゴノキ | ○ | ○ | ○ | 木 |

表6. 確認された植物

No. 9

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|-----------|------------|--------|-------|-------|----|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| └合弁花類 (続) | | | | | |
| オオバコ科 | オオバコ | ○ | ○ | ○ | |
| オミナエシ科 | オトコエシ | ○ | ○ | | |
| | カノコソウ | | ○ | | |
| ガガイモ科 | ガガイモ | | | ○ | |
| | キジョラン | ○ | ○ | ○ | 木 |
| カキノキ科 | カキノキ | ○ | ○ | | 木 |
| キキョウ科 | サイヨウシャジン | ○ | ○ | ○ | |
| | ツクシタニギキョウ | | ○ | | |
| | ツルニンジン | | ○ | ○ | |
| キク科 | アキノキリンソウ | ○ | | | |
| | アキノノゲシ | ○ | | ○ | |
| | アメリカセンダングサ | | | ○ | |
| | ウスベニチチコグサ | | ○ | | 外 |
| | ウラジロチチコグサ | ○ | ○ | ○ | 外 |
| | オオアレチノギク | ○ | | ○ | 外 |
| | オオジシバリ | ○ | | | |
| | オカオグルマ | | ○ | | |
| | オカダイコン | ○ | ○ | ○ | |
| | オトコヨモギ | ○ | ○ | ○ | |
| | オニタビラコ | ○ | ○ | ○ | |
| | オニノゲシ | | ○ | ○ | 外 |
| | ガンクビソウ | ○ | | ○ | |
| | キクバヒヨドリ | | ○ | | |
| | キツネアザミ | | ○ | | |
| | キバナコスモス | ○ | | | 外 |
| | コメナモミ | ○ | | | |
| | サワヒヨドリ | | | ○ | |
| | シマカンギク | ○ | ○ | ○ | |
| | シュウブンソウ | ○ | | ○ | |
| | シラヤマギク | ○ | | ○ | |
| | セイタカアワダチソウ | ○ | ○ | ○ | 外 |
| | ダンドボロギク | | | ○ | 外 |
| | チチコグサ | | | ○ | |
| | チチコグサモドキ | | | ○ | 外 |
| | ツワブキ | ○ | ○ | ○ | |
| | ニガナ | | ○ | | |
| | ノアザミ | | ○ | | |
| | ノゲシ | | ○ | | |

表6. 確認された植物

No. 10

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|------------|-----------|--------|-------|-------|--------------|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| └─合弁花類 (続) | | | | | |
| キク科 (続) | ノブキ | ○ | ○ | ○ | |
| | ヒメアザミ | ○ | | ○ | |
| | ヒメシオン | ○ | | ○ | |
| | ヒメジョオン | ○ | ○ | ○ | 外 |
| | ヒメムカシヨモギ | ○ | | ○ | 外 |
| | ヒメヨモギ | ○ | ○ | ○ | |
| | ヒヨドリバナ | ○ | ○ | ○ | |
| | フキ | | ○ | | |
| | ベニバナボロギク | ○ | | ○ | 外 |
| | ムラサキニガナ | ○ | ○ | ○ | |
| | メリケントキンソウ | | ○ | | 外 |
| | ヤクシソウ | | | ○ | |
| | ヤナギアザミ | ○ | ○ | ○ | |
| | ヤブタバコ | | | ○ | |
| | ヨモギ | ○ | ○ | ○ | |
| キツネノマゴ科 | キツネノマゴ | ○ | | ○ | |
| キョウチクトウ科 | ケテイカカズラ | | ○ | ○ | 木 |
| | テイカカズラ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| クマツヅラ科 | クサギ | ○ | ○ | | 木 |
| | ハマクサギ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ムラサキシキブ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ヤブムラサキ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| ゴマノハグサ科 | オオイヌノフグリ | | ○ | | 外 |
| | ゴマノハグサ | ○ | ○ | ○ | (国)(県)絶滅危惧Ⅱ類 |
| | タチイヌノフグリ | | ○ | | 外 |
| | トキワハゼ | ○ | | | |
| | トラノオスズカケ | ○ | ○ | ○ | (県)絶滅危惧ⅠA類 |
| | フラサバソウ | | ○ | | 外 |
| | マツバウンラン | | ○ | | 外 |
| サクラソウ科 | オカトラノオ | ○ | ○ | | |
| | コナスビ | ○ | ○ | | |
| シソ科 | アキノタムラソウ | | | ○ | |
| | イヌコウジュ | ○ | | ○ | |
| | オドリコソウ | ○ | ○ | | |
| | キラソウ | ○ | ○ | ○ | |
| | タツナミソウ | | ○ | ○ | |
| | トウバナ | ○ | ○ | ○ | |
| | ホトケノザ | ○ | | | |

表6. 確認された植物

No. 11

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|---------------|-----------|--------|-------|-------|------------------|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| └─合弁花類 (続) | | | | | |
| シソ科 (続) | ヤマハッカ | ○ | ○ | ○ | |
| | レモンエゴマ | ○ | | ○ | |
| スイカズラ科 | ガマズミ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | キダチニンドウ | ○ | ○ | | 木 |
| | コバノガマズミ | ○ | | | 木 |
| | サンゴジュ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | スイカズラ | | ○ | ○ | 木 |
| | ニワトコ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ハクサンボク | ○ | ○ | | 木 |
| ツツジ科 | アセビ | ○ | ○ | | 木 |
| | シャシャンボ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| ナス科 | オオイヌホオズキ | ○ | | ○ | 外 |
| | ヒヨドリジョウゴ | ○ | | | |
| ニレ科 | エノキ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ケヤキ | | ○ | | 木・逸 |
| | ムクノキ | ○ | | ○ | 木 |
| ハイノキ科 | クロキ | ○ | | ○ | 木 |
| | ミミズバイ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| ハエドクソウ科 | ハエドクソウ | ○ | | ○ | |
| ハマウツボ科 | ナンバンギセル | | | ○ | |
| ヒルガオ科 | アメリカアサガオ | | | ○ | 外 |
| マチン科 | アイナエ | | | ○ | |
| | ホウライカズラ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| ムラサキ科 | キュウリグサ | | ○ | ○ | |
| | ハナイバナ | | ○ | | |
| モクセイ科 | ネズミモチ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | ヒイラギモクセイ | ○ | ○ | | 木・逸 |
| ヤブコウジ科 | イズセンリョウ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | カラタチバナ | ○ | ○ | ○ | 木 (県) 絶滅危惧 I B 類 |
| | ツルコウジ | ○ | ○ | | 木 |
| | マンリョウ | ○ | | ○ | 木 |
| | ヤブコウジ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| リンドウ科 | リンドウ | ○ | ○ | ○ | (県) 絶滅危惧 II 類 |
| └─単子葉類 10科77種 | | | | | |
| アヤメ科 | オオニワゼキショウ | | ○ | | 外 |
| | シャガ | ○ | ○ | ○ | |
| | ヒオウギ | ○ | | | |
| イグサ科 | クサイ | ○ | ○ | | |

表6. 確認された植物

No. 12

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|----------|-----------|--------|-------|-------|----|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| └─ 単子葉類 | | | | | |
| イグサ科 (続) | スズメノヤリ | ○ | ○ | | |
| | アキノエノコログサ | | | ○ | |
| イネ科 | アキメヒシバ | | | ○ | |
| | アシボソ | ○ | | | |
| | アブラススキ | | | ○ | |
| | イヌアワ | | | ○ | |
| | ウシクサ | ○ | | | |
| | オガルカヤ | ○ | | ○ | |
| | カゼクサ | ○ | | ○ | |
| | カニツリグサ | | ○ | | |
| | カモガヤ | | ○ | | 外 |
| | キンエノコロ | | | ○ | |
| | コメヒシバ | | | ○ | |
| | ササガヤ | ○ | ○ | ○ | |
| | ササクサ | ○ | | ○ | |
| | シバ | | ○ | ○ | |
| | シマスズメノヒエ | | | ○ | 外 |
| | ススキ | ○ | ○ | ○ | |
| | スズメノカタビラ | | ○ | | |
| | タチスズメノヒエ | ○ | | ○ | 外 |
| | チガヤ | ○ | ○ | ○ | |
| | チカラシバ | ○ | | ○ | |
| | チヂミザサ | ○ | | ○ | |
| | トウササクサ | ○ | | ○ | |
| | トダシバ | ○ | | ○ | |
| | トボシガラ | | ○ | | |
| | ヌカキビ | ○ | | ○ | |
| | ヌカボ | | ○ | | |
| | ネザサ | ○ | ○ | ○ | |
| | ネズミノオ | ○ | | ○ | |
| | ハチク | | ○ | | |
| | マダケ | ○ | ○ | ○ | |
| ミゾイチゴツナギ | | ○ | | | |
| メガルカヤ | ○ | | ○ | | |
| メダケ | | | ○ | | |
| メヒシバ | | | ○ | | |
| メリケンカルカヤ | | | ○ | 外 | |
| モウソウチク | ○ | ○ | ○ | | |

表6. 確認された植物

No. 13

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|------------|------------|--------|-------|-------|---------------|
| | | 11月25日 | 4月26日 | 9月27日 | |
| └─単子葉類 (続) | | | | | |
| イネ科 (続) | モロコシガヤ | | | ○ | |
| カヤツリグサ科 | イヌクグ | ○ | | ○ | |
| | シラスゲ | | | ○ | |
| | ナキリスゲ | | ○ | ○ | |
| | ヒメクグ | ○ | | | |
| サトイモ科 | セキショウ | ○ | ○ | | |
| | ナンゴクウラシマソウ | | ○ | ○ | |
| | マムシグサ | ○ | ○ | ○ | |
| ショウガ科 | ムサシアブミ | | | ○ | |
| | ハナミョウガ | ○ | ○ | ○ | |
| ツユクサ科 | ツユクサ | ○ | ○ | ○ | |
| | マルバツユクサ | ○ | | | |
| | ミドリハカタカラクサ | ○ | | | 外 |
| | ヤブミョウガ | ○ | ○ | ○ | |
| ヒガンバナ科 | スズランズイセン | | ○ | | 外 |
| | ヒガンバナ | ○ | | ○ | |
| ヤマノイモ科 | オニドコロ | ○ | ○ | ○ | |
| | カエデドコロ | ○ | ○ | ○ | |
| | タチドコロ | ○ | | | |
| | ニガカシュウ | ○ | | | |
| | ヤマノイモ | ○ | | ○ | |
| ユリ科 | アマドコロ | | ○ | ○ | |
| | ウバユリ | | ○ | | |
| | キチジョウソウ | | ○ | ○ | |
| | コヤブラン | ○ | | ○ | |
| | サルトリイバラ | ○ | ○ | ○ | 木 |
| | シオデ | ○ | ○ | ○ | |
| | ジャノヒゲ | ○ | ○ | ○ | |
| | ツルボ | | | ○ | |
| | ナガバジャノヒゲ | ○ | ○ | ○ | |
| | ナルコユリ | ○ | ○ | ○ | |
| | ノヒメユリ | | | ○ | (国)(県)絶滅危惧IB類 |
| | ノビル | ○ | ○ | | |
| | ホウチャクソウ | ○ | ○ | | |
| | ヤブラン | ○ | ○ | ○ | |

(3) 鳥類

5目 18科 25種が確認された。

表7. 確認された主な野生生物（鳥類）

| 和名 | 種類 |
|---|--|
|  <p>オオルリ（写真出典：ウィキペディア）</p> | <p>県：準絶滅危惧</p> <p>県内には夏鳥として渡来し、繁殖する。山地の溪流沿いの樹林に生息する。林道整備事業などによる工事や開発、温暖化による環境変化など生息域の減少が懸念される。また、密漁による捕獲もあるものと思われる。</p> <p>（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014-）</p> |
|  <p>サンコウチョウ（写真出典：ウィキペディア）</p> | <p>県：絶滅危惧Ⅱ類</p> <p>本州以南に夏鳥として渡来し、平地から低山の沢筋の比較的暗い林に生息する。雄は非常に長い尾を持つ。全長雄 45 cm、雌 17 cm。低木の二又になった枝に巣を作る。1 巣卵数は 3～5 個。林内の空間で飛翔する昆虫をフライングキャッチで捕食する。近年は繁殖場所が限定してきた傾向にある。</p> <p>（出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014-）</p> |
|  <p>ソウシチョウ（写真出典：ウィキペディア）</p> | <p>特定外来生物</p> <p>美しい姿や鳴き声を楽しむため、江戸時代頃からペットとして輸入され、飼育されてきた。飼っていた人が逃がすなどといった幾つかの要因から、野外に定着したと考えられている。近年の爆発的な個体数の増加が在来種に影響を与えている可能性が指摘されている。</p> <p>（出典：九州地方環境事務所 外来生物対策-ソウシチョウ、ガビチョウの捕獲、飼養の禁止について）</p> |

表 8. 確認された鳥類

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|-------------|---------------|--------|-------|-------|-------------|
| | | 11月28日 | 5月11日 | 9月27日 | |
| カッコウ目 1科1種 | | | | | |
| カッコウ科 | ホトトギス | | ○ | | |
| キツツキ目 1科2種 | | | | | |
| キツツキ科 | アオゲラ | ○ | ○ | ○ | |
| | コゲラ | | ○ | ○ | |
| スズメ目 14科20種 | | | | | |
| アトリ科 | カワラヒワ | ○ | ○ | | |
| エナガ科 | エナガ | ○ | ○ | ○ | |
| カラス科 | ハシトガラス | ○ | ○ | ○ | |
| | ハシボソガラス | | ○ | ○ | |
| サンショウクイ科 | リュウキュウサンショウクイ | | ○ | ○ | |
| シジュウカラ科 | シジュウカラ | | ○ | ○ | |
| | ヤマガラ | ○ | ○ | ○ | |
| チメドリ科 | ソウシチョウ | ○ | ○ | ○ | 特定外来生物 |
| ツバメ科 | ツバメ | | ○ | | |
| ハタオリドリ科 | スズメ | ○ | ○ | ○ | |
| ウグイス科 | ウグイス | ○ | ○ | | |
| ヒタキ科 | オオルリ | | ○ | | (県) 準絶滅危惧 |
| | キビタキ | | ○ | | |
| | サンコウチョウ | | ○ | | (県) 絶滅危惧II類 |
| ツグミ科 | ジョウビタキ | ○ | | | |
| | シロハラ | ○ | ○ | | |
| ヒヨドリ科 | ヒヨドリ | ○ | ○ | ○ | |
| ホオジロ科 | アオジ | ○ | | | |
| | ホオジロ | ○ | ○ | ○ | |
| メジロ科 | メジロ | ○ | ○ | ○ | |
| タカ目 1科1種 | | | | | |
| タカ科 | トビ | ○ | ○ | | |
| ハト目 1科1種 | | | | | |
| ハト科 | キジバト | ○ | ○ | ○ | |

(4) 昆虫類・クモ類

12 目 70 科 168 種の昆虫類、1 目 15 科 24 種のクモ類が確認された。

表 9. 確認された主な野生生物 (昆虫類・クモ類)

| 和名 | 種類 |
|---|---|
|  <p data-bbox="437 853 555 880">クロアゲハ</p> | <p data-bbox="791 456 1390 804">北海道を除く日本全土に分布するが、東北地方北部では少ない。はねの開張は 100~120mm 程度。雌雄ともはねは黒色 (雌は色彩がやや淡色)、雄では後ろばねの前方に横白条がある。分布の北限に近い地方では年 2 回、暖地では年 3 回の発生、南西諸島ではさらに発生回数を増す。幼虫の食草は温州 (うんしゅう) ミカン、ナツミカン、ユズなどのミカン類、カラタチ、サンショウ、イヌザンショウ、カラスザンショウ、ミヤマシキミなどのミカン科植物。越冬態は蛹 (さなぎ)。</p> <p data-bbox="831 853 1321 880">(出典：小学館 日本大百科全書【ニッポニカ】)</p> |
|  <p data-bbox="416 1391 576 1417">タイリクアカネ</p> | <p data-bbox="791 994 1390 1341">腹長雄 24.80~29.20 mm、雌 28.20~30.60 mm、後翅長雄 29.30~31.30 mm、雌 30.00~32.50 mm。雄雌共に翅の基部および前縁は薄い橙黄色。体色は未熟なうちは雄雌ともに胸部は黄色で腹部は橙色。雄は成熟すると胸部は褐色となり、腹部背面は赤くなる。雌は腹部背面が赤くなる個体が多い。同属他種とは体が大型なことと、胸部第一側縫線上の黒条が細く短いこと、雄雌ともに翅が全体的に橙色になることなどから区別される。5 月中旬から 12 月下旬に出現し、平地の水面の開けた池沼に生息する。</p> <p data-bbox="831 1391 1257 1417">(出典：愛媛県レッドデータブック 2014-)</p> |
|  <p data-bbox="437 1924 555 1951">オニヤンマ</p> | <p data-bbox="791 1532 1390 1879">日本産のトンボのうち最大で、特に雌は体長 110 mm、後翅長 65 mm に達し、腹端から産卵管が突き出している。体は漆黒色で黄色の横縞があり、複眼は成熟虫では濃緑色に光る。北海道から琉球列島まで分布するが、本州の低山地に多い。幼虫は剛毛を生じた頑丈な体で、細い流れの砂中に育ち、初夏のころ羽化して出る。成虫は道路や水路の上を往復して飛ぶ。雌は流れの砂中に腹端の産卵管を突き立てて産卵する。卵は楕円形、孵化した幼虫は成長に 3~4 年を要すると考えられる。</p> <p data-bbox="831 1924 1321 1951">(出典：小学館 日本大百科全書【ニッポニカ】)</p> |

表9. 確認された主な野生生物（昆虫類・クモ類）

| 和名 | 種類 |
|---|---|
|  <p data-bbox="419 745 579 775">ツマグロバッタ</p> | <p data-bbox="802 365 1394 595">雄の体色は明るい黄褐色、雌は枯草色。後翅端と後脚の膝部が黒色をしている。ツマグロイナゴの和名もある。ヨシ原のようなやや湿った草丈の高い草地に生息している。年1化で成虫は初夏から夏に出現する。本種の主な生息地はヨシ群落などの高茎草地であるが、開発等の影響を受けやすく、生息地数および個体数が減少するおそれがある。</p> <p data-bbox="818 645 1246 674">(出典：群馬県レッドデータブック 2012-)</p> |
|  <p data-bbox="419 1279 579 1308">コシロカネグモ</p> | <p data-bbox="802 920 1394 1151">体長雌8～11mm、雄5～8mm。平地～山地に広く生息。草原、雑木林の周辺、河原、林道、溪流沿いの樹間、都市部の庭園などにも見られる。樹間、草間に水平円網を張り、中心に止まる。腹部は銀色で、通常縦条は目立たないが、刺激を与えると中央に縦の1本と後方に1対の細い条が現れる。</p> <p data-bbox="834 1200 1394 1229">(出典：ネイチャーガイド 日本のクモ 新海栄一 著)</p> |

表10. 確認された昆虫類・クモ類

No. 1

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | | 備考 |
|---------------|----------|--------|-------|-------|-------|----|
| | | 11月28日 | 5月11日 | 7月28日 | 9月27日 | |
| アミメカゲロウ目 2科2種 | | | | | | |
| ウスバカゲロウ科 | ウスバカゲロウ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| クサカゲロウ科 | クサカゲロウ | ○ | | | | |
| オビヤスデ目 2科2種 | | | | | | |
| ババヤスデ科 | ミドリババヤスデ | | ○ | | | |
| ヤケヤスデ科 | ヤマトアカヤスデ | | ○ | | | |
| カマキリ目 1科4種 | | | | | | |
| カマキリ科 | オオカマキリ | ○ | | ○ | ○ | |
| | カマキリ | | | | ○ | |
| | コカマキリ | | | ○ | | |

表10. 確認された昆虫類・クモ類

No. 2

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | | 備考 |
|---------------|-------------|--------|-------|-------|-------|----|
| | | 11月28日 | 5月11日 | 7月28日 | 9月27日 | |
| カマキリ目 (続) | | | | | | |
| カマキリ科 (続) | ハラビロカマキリ | ○ | | ○ | ○ | |
| カメムシ目 8科14種 | | | | | | |
| オオホシカメムシ科 | ヒメホシカメムシ | | ○ | ○ | ○ | |
| オオヨコバイ科 | ツماغロオオヨコバイ | | | ○ | ○ | |
| カメムシ科 | アオクサカメムシ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | チャバネアオカメムシ | ○ | | | | |
| セミ科 | アブラゼミ | | ○ | ○ | | |
| | クマゼミ | ○ | | ○ | | |
| | ニイニイゼミ | ○ | | | | |
| | ヒメハルゼミ | | | ○ | | |
| ツチカメムシ科 | ツチカメムシ | | ○ | ○ | | |
| ノコギリカメムシ科 | ノコギリカメムシ | | | ○ | | |
| ヘリカメムシ科 | ホオズキカメムシ | | | ○ | | |
| | ハリカメムシ | | ○ | ○ | ○ | |
| ホソヘリカメムシ科 | クモヘリカメムシ | | | ○ | | |
| | ホソヘリカメムシ | | | ○ | ○ | |
| コウチュウ目 12科24種 | | | | | | |
| オサムシ科 | ヒメオサムシ | | ○ | | | |
| カミキリムシ科 | アメイロカミキリ | | ○ | | | |
| | シロスジカミキリ | | | ○ | | |
| | タケノトラカミキリ | | | | ○ | |
| | ノコギリカミキリ | | | ○ | | |
| | ベニカミキリ | | | | ○ | |
| クワガタムシ科 | コクワガタ | | | | ○ | |
| | ミヤマクワガタ | | ○ | | ○ | |
| ケシキスイ科 | ヨツボシケシキスイ | | | ○ | | |
| コガネムシ科 | コアオハナムグリ | | ○ | | | |
| | シロテンハナムグリ | | | ○ | | |
| | セマダラコガネ | | ○ | ○ | ○ | |
| | ヒメアシナガコガネ | | ○ | | | |
| | ヒメコガネ | | | ○ | ○ | |
| | マメコガネ | | | ○ | ○ | |
| ゴミムシダマシ科 | キマワリ | | | ○ | | |
| コメツキムシ科 | クシコメツキ | | ○ | | ○ | |
| | サビキコリ | | ○ | ○ | ○ | |
| ジョウカイボン科 | マルムネジョウカイ | | ○ | | | |
| センチコガネ科 | センチコガネ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| テントウムシ科 | ナナホシテントウ | ○ | | | | |
| | ナミテントウ | ○ | | | | |

表10. 確認された昆虫類・クモ類

No. 3

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | | 備考 |
|--------------|-------------|--------|-------|-------|-------|----|
| | | 11月28日 | 5月11日 | 7月28日 | 9月27日 | |
| コウチュウ目 (続) | | | | | | |
| ハムシ科 | ヨモギハムシ | ○ | | | | |
| マルカメムシ科 | マルカメムシ | ○ | | ○ | ○ | |
| ゴキブリ目 1科2種 | | | | | | |
| チャバネゴキブリ科 | チャバネゴキブリ | | ○ | ○ | ○ | |
| | モリチャバネゴキブリ | ○ | | | | |
| シリアゲムシ目 1科1種 | | | | | | |
| シリアゲムシ科 | ヤマトシリアゲ | | ○ | ○ | | |
| チョウ目 18科65種 | | | | | | |
| アゲハチョウ科 | アオスジアゲハ | | ○ | ○ | ○ | |
| | カラスアゲハ | | ○ | ○ | ○ | |
| | キアゲハ | | ○ | | ○ | |
| | クロアゲハ | | ○ | | | |
| | ジャコウアゲハ | | | ○ | | |
| | ナガサキアゲハ | | ○ | ○ | ○ | |
| | ナミアゲハ | | ○ | ○ | ○ | |
| | モンキアゲハ | | ○ | ○ | ○ | |
| イラガ科 | イラガ | | ○ | | ○ | |
| | ヒロヘリアオイラガ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| カギバ科 | ヒトツメカギバ | | ○ | ○ | ○ | |
| カノコガ科 | カノコガ | | | ○ | | |
| シジミチョウ科 | ウラギンシジミ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | ウラナミシジミ | ○ | | ○ | ○ | |
| | クロマダラソテツシジミ | | | ○ | ○ | |
| | サツマシジミ | | ○ | ○ | | |
| | ツバメシジミ | | ○ | ○ | ○ | |
| | ベニシジミ | | ○ | ○ | | |
| | ムラサキシジミ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | ムラサキツバメ | ○ | | ○ | | |
| | ヤマトシジミ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | ルリシジミ | | ○ | ○ | ○ | |
| シャクガ科 | オオトビスジエダシャク | | ○ | | | |
| | トンボエダシャク | | ○ | | | |
| | ユウマダラエダシャク | | ○ | ○ | | |
| ジャノメチョウ科 | クロコノメ | ○ | | ○ | ○ | |
| シロチョウ科 | キタキチョウ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | スジグロシロチョウ | | | ○ | | |
| | ツマキチョウ | | ○ | | | |
| | モンキチョウ | | ○ | ○ | ○ | |
| | モンシロチョウ | ○ | ○ | ○ | ○ | |

表10. 確認された昆虫類・クモ類

No. 4

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | | 備考 |
|------------|------------|--------|-------|-------|-------|----|
| | | 11月28日 | 5月11日 | 7月28日 | 9月27日 | |
| チョウ目 (続) | | | | | | |
| スズメガ科 | ホシホウジャク | | ○ | ○ | ○ | |
| セセリチョウ科 | イチモンジセセリ | | | ○ | ○ | |
| | キマダラセセリ | | ○ | ○ | ○ | |
| | クロセセリ | | ○ | | | |
| | ダイミョウセセリ | | ○ | ○ | ○ | |
| | チャバネセセリ | | | | ○ | ○ |
| タテハチョウ科 | アカタテハ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | イシガケチョウ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | キタテハ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | クロヒカゲ | | | ○ | | |
| | ゴマダラチョウ | | ○ | ○ | ○ | |
| | コムスジ | | ○ | ○ | ○ | |
| | ツマグロヒョウモン | | ○ | ○ | ○ | |
| | テングチョウ | | ○ | ○ | | |
| | ヒメアカタテハ | ○ | | ○ | ○ | |
| | ヒメウラナミジャノメ | | ○ | ○ | ○ | |
| | ヒメジャノメ | | ○ | | | |
| | ミドリヒョウモン | | | | ○ | ○ |
| | ルリタテハ | | ○ | ○ | ○ | |
| ツトガ科 | シロオビノメイガ | | | | ○ | |
| ドクガ科 | キドクガ | ○ | | | | |
| | ゴマフリドクガ | | ○ | | ○ | |
| | チャドクガ | ○ | ○ | | ○ | |
| | トガリバナミシャク | ○ | | | | |
| ヒトリガ科 | アカヒトリ | | | | ○ | |
| マダラガ科 | サツマニシキ | | | ○ | | |
| | ホタルガ | | | ○ | | |
| | アサギマダラ | | | | ○ | |
| ミノガ科 | シバミノガ | ○ | | | | |
| | チャミノガ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| メイガ科 | ワタヘリクロノメイガ | | ○ | | ○ | |
| ヤガ科 | シロスジトモエ | | | ○ | | |
| | ハスモンヨトウ | ○ | | | | |
| | フタトガリコヤガ | ○ | | | | |
| トンボ目 6科18種 | | | | | | |
| イトトンボ科 | アオモンイトトンボ | | ○ | | ○ | |
| オニヤンマ科 | オニヤンマ | | ○ | ○ | ○ | |
| カワトンボ科 | ハグロトンボ | | | ○ | | |
| サナエトンボ科 | ヤマサナエ | | ○ | | | |

表10. 確認された昆虫類・クモ類

No. 5

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | | 備考 |
|-----------|-------------|--------|-------|-------|-------|----|
| | | 11月28日 | 5月11日 | 7月28日 | 9月27日 | |
| トンボ目 (続) | | | | | | |
| トンボ科 | ウスバキトンボ | | ○ | ○ | ○ | |
| | オオシオカラトンボ | | | ○ | | |
| | コシアキトンボ | | | ○ | | |
| | シオカラトンボ | | ○ | ○ | ○ | |
| | ショウジョウトンボ | | | ○ | | |
| | タイリクアカネ | | | ○ | | |
| | ノシメトンボ | | | ○ | | |
| | ハネビロトンボ | | | | | ○ |
| | ハラビロトンボ | | ○ | | | |
| | マユタテアカネ | | | ○ | | |
| ヤンマ科 | オオヤマトンボ | | | ○ | ○ | |
| | カトリヤンマ | | | ○ | ○ | |
| | ギンヤンマ | | ○ | ○ | ○ | |
| | クロスジギンヤンマ | | ○ | | | |
| ハエ目 6科9種 | | | | | | |
| ガガンボ科 | ミカドガガンボ | | | ○ | | |
| カ科 | ヒトスジシマカ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| クロバエ科 | オオクロバエ | ○ | | ○ | ○ | |
| | キンバエ | | | ○ | | |
| ツリアブ科 | ニトベハラボソツリアブ | | | ○ | | |
| ハナアブ科 | アシプトハナアブ | | | ○ | ○ | |
| | オオハナアブ | | ○ | | | |
| | ホソヒラタアブ | ○ | | ○ | ○ | |
| ムシヒキアブ科 | マガリケムシヒキ | | ○ | | | |
| ハチ目 8科18種 | | | | | | |
| アナバチ科 | サトジガバチ | | | ○ | | |
| アリ科 | アミアアリ | | | ○ | ○ | |
| | クロヤマアリ | | | ○ | ○ | |
| | トビイロシワアリ | | | ○ | ○ | |
| クモバチ科 | オオフタオビドロバチ | | | ○ | ○ | |
| ドロバチ科 | スズバチ | | | ○ | ○ | |
| クモバチ科 | ベッコウクモバチ | | | | ○ | |
| スズメバチ科 | キイロスズメバチ | ○ | ○ | | ○ | |
| | オオスズメバチ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | クロスズメバチ | | | ○ | | |
| | セグロアシナガバチ | | | ○ | | |
| | ムモンホソアシナガバチ | | | ○ | | |
| ツチバチ科 | ヒメハラナガツチバチ | | | ○ | ○ | |
| ミツバチ科 | キムネクマバチ | | ○ | ○ | ○ | |

表10. 確認された昆虫類・クモ類

No. 6

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | | 備考 |
|-----------------|------------|--------|-------|-------|-------|----|
| | | 11月28日 | 5月11日 | 7月28日 | 9月27日 | |
| ハチ目 (続) | | | | | | |
| ミツバチ科 (続) | セイヨウミツバチ | ○ | | | | |
| | トラマルハナバチ | | ○ | ○ | ○ | |
| | ナミルリモンハナバチ | | | | ○ | |
| | ニホンミツバチ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| バッタ目 5科9種 | | | | | | |
| イナゴ科 | ツチイナゴ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| キリギリス科 | キリギリス | | ○ | | | |
| | クサキリ | ○ | | ○ | | |
| | ササキリ | | | ○ | | |
| ツユムシ科 | サトクダマキモドキ | ○ | | ○ | ○ | |
| | ツユムシ | | | ○ | | |
| バッタ科 | ショウリョウバッタ | | ○ | | ○ | |
| | ツマグロバッタ | | | ○ | | |
| ヒシバッタ科 | ヒシバッタ | | ○ | ○ | ○ | |
| クモ形綱 クモ目 15科24種 | | | | | | |
| アシダカグモ科 | アシダカグモ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| アシナガグモ科 | アシナガグモ | | ○ | ○ | ○ | |
| | コシロカネグモ | | | ○ | | |
| | ヤサガタアシナガグモ | | ○ | | | |
| ウズグモ科 | ウズグモ | | ○ | | | |
| カニグモ科 | アズチグモ | | | | ○ | |
| キンダグモ科 | イオウイロハシリグモ | | | ○ | | |
| コガネグモ科 | コガネグモ | ○ | ○ | | | |
| | ゴミグモ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | ナガコガネグモ | | | | ○ | |
| コモリグモ科 | ウズキコモリグモ | ○ | ○ | | | |
| | ハラクロコモリグモ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ジグモ科 | ジグモ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ジョロウグモ科 | ジョロウグモ | ○ | | ○ | ○ | |
| タナグモ科 | クサグモ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ハエトリグモ科 | アオオビハエトリ | | ○ | ○ | | |
| | アリグモ | | ○ | | | |
| | ネコハエトリ | | ○ | ○ | ○ | |
| | マミジロハエトリ | | ○ | | | |
| ヒメグモ科 | オオヒメグモ | ○ | ○ | | | |
| | ヒメグモ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ヒラタグモ科 | ヒラタグモ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ヤチグモ科 | クロヤチグモ | ○ | ○ | | | |
| ユウレイグモ科 | ユウレイグモ | | ○ | ○ | ○ | |

(5) は虫類・両生類

1目3科5種のは虫類、2目3科5種の両生類が確認された。

表 1 1. 確認された主な野生生物（は虫類・両生類）

| 和 名 | 種 類 |
|---|---|
|  <p data-bbox="496 869 587 898">ヒバカリ</p> | <p data-bbox="884 432 1050 461">県：準絶滅危惧</p> <p data-bbox="908 506 1374 757">小型の蛇で、昼行性であるが、夕方や夜間にも見られる。平地や山地の湿った林内、水田、河川などの主に水辺付近で見られる。カエルをよく食べるため、カエルの生息状況によっても生息数は左右される。カエルの生息環境を含めた水辺の豊かさが必要と思われる。</p> <p data-bbox="890 801 1362 869">(出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014-)</p> |
|  <p data-bbox="464 1435 624 1464">トノサマガエル</p> | <p data-bbox="884 949 1326 978">国：準絶滅危惧 県：絶滅危惧IB類</p> <p data-bbox="908 1023 1374 1350">代表的な水田域のカエルであったが、平野部では山沿いの地域を除きほとんどみられなくなった。水路や溝の水、草地などの減少により成体の隠れ場所や餌動物が減少して生息に適しなくなっており、幼生が生息する水域も乾燥の危険性が高く、いずれの場所でも減少傾向にある。山間部の水田域には比較的広く分布しているが、水田環境の変化は今後山間部にも及ぶ可能性が高い。</p> <p data-bbox="884 1395 1374 1462">(出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014-)</p> |
|  <p data-bbox="472 1935 612 1964">ニホンイモリ</p> | <p data-bbox="884 1503 1305 1532">国：準絶滅危惧 県：準絶滅危惧</p> <p data-bbox="908 1576 1374 1868">山間部の水田域では本種が多く観察されるが、平地では山際の水田域でも確認できない場所が出てきている。本種の成体は年間を通して水中で生活するが、整備された水田では中干の間は水路も完全に排水されるようが多く、また、放棄された水田は数年後は陸化することから、生息できる水域は年々減少している。</p> <p data-bbox="890 1912 1362 1980">(出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014-)</p> |

表 1 1. 確認された主な野生生物（は虫類・両生類）

| 和 名 | 種 類 |
|--|--|
|  ウシガエル | 特定外来生物 体長 111～183 mm、体重 139～183 g。大型でみずかきが良く発達する。池沼などの止水、穏やかな流れの周辺に生息。在来のカエルに比べ水生傾向が強く、成体は1年中池で見られる。夜行性で昼間は水草の中や水場周辺の茂みや窪地に隠れる。雄は「ウォー、ウォー」と聞こえるウシに似た太い不気味な鳴き声を出す。食性は肉食性で、口に入る大きさであればほとんどの動物を食べる。昆虫、アメリカザリガニ、他のカエル類、魚類など、小型哺乳類や小鳥を襲うこともある。 （出典：国立研究開発法人 国立環境研究所 侵入生物データベース） |

表 1 2. 確認されたは虫類・両生類

| 科 名 | 種 名 (和 名) | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備 考 |
|-----------------------|--------------|--------|-------|-------|-------------------------|
| | | 11月15日 | 4月28日 | 7月15日 | |
| 爬虫綱 有鱗目 (3科5種) | | | | | |
| カナヘビ科 | ニホンカナヘビ | ○ | ○ | ○ | |
| トカゲ科 | ニホントカゲ | | | ○ | |
| ナミヘビ科 | シマヘビ | | ○ | | |
| | ヒバカリ | | | ○ | (県) 準絶滅危惧 |
| | ヤマカガシ | | ○ | ○ | |
| 両生綱 無尾目 (2科4種) | | | | | |
| アオガエル科 | シュレーゲルアオガエル | | ○ | ○ | |
| アカガエル科 | ウシガエル | | ○ | | 特定外来生物 |
| | ツチガエル | | ○ | | |
| | トノサマガエル | | | ○ | (国) 準絶滅危惧、(県) 絶滅危惧 IB 類 |
| 両生綱 有尾目 (1科1種) | | | | | |
| イモリ科 | ニホンイモリ | | ○ | | (国) 準絶滅危惧、(県) 準絶滅危惧 |

(6) ほ乳類

4目4科6種のはほ乳類が確認された。

表13. 確認された主な野生生物 (ほ乳類)

| 和名 | 種類 |
|---|--|
|  <p style="text-align: center;">ヒミズのトンネル</p> | <p>モグラ類と同様に目は皮下に埋まり、耳介がないが、モグラ類に比べて体が小さく、尾が長め。土をかきわける前足は、やや幅が広いもののモグラほど発達していない。</p> <p>地中の浅い部分にトンネルを掘って生活し、地表でもかなり活動するなど地下生活への適応度合いが低い、半地下性の動物。地表に出るのは夜間のことが多いようだが、昼夜を問わず数時間の周期で活動と休息を繰り返していると推測される。頭胴長8~10cm、尾長3~4cm。体毛は黒色から黒褐色でピロード状。棍棒状の尾には長毛がまばらに生えている。樹林地の落葉、腐植層に生息。</p> <p>(出典：国営越後丘陵公園「公園の哺乳類」)</p> |
|  <p style="text-align: center;">テンの糞</p> | <p>テンは本州、四国、九州、淡路島、対馬に分布する。佐渡と北海道には導入されたと考えられるものが分布する。朝鮮半島南部に分布するという報告があるが未確認。毛色は黄色から褐色まで変異が多い。頭胴長45cm、尾長19cm、体重1.1~1.5kg。耳介ははっきりと外に出る。樹上空間を多く利用するため森林を生息地とするが、樹木があれば人家周辺にもみられる。げっ歯類、鳥類、両生爬虫類、昆虫類、ムカデなど土壌動物、ヤマグワ・マタタビなどの果実類と、多様なものを採食する。単独生活。夏に交尾し翌年4~5月に2~4頭出産する。</p> <p>(出典：日本の哺乳類 [改訂版] 阿部永)</p> |

表14. 確認されたほ乳類

| 科名 | 種名 (和名) | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|------------|------------|--------|-------|-------|------------------|
| | | 11月28日 | 5月11日 | 10月2日 | |
| 偶蹄目 (ウシ目) | (1科1種) | | | | |
| イノシシ科 | イノシシ | ○ | ○ | ○ | 足跡およびエサをあさった跡を確認 |
| 食肉目 (ネコ目) | (1科2種) | | | | |
| イタチ科 | アナグマ | | ○ | | 餌を掘った穴を確認 |
| | テン | ○ | ○ | ○ | フンを確認 |
| 齧歯目 (ネズミ目) | (1科1種) | | | | |
| ネズミ科 | アカネズミ | ○ | | | 入り口の穴を確認 |
| 食虫目 (モグラ目) | (1科2種) | | | | |
| モグラ科 | コウベモグラ | ○ | ○ | ○ | 塚とトンネルを確認 |
| | ヒミズ | ○ | ○ | ○ | トンネルを確認 |

(7) 魚介類・菌類

2目3科3種の貝類、1目1科1種の甲殻類、4目6科8種の菌類が確認された。

表15. 確認された主な野生生物（魚介類）

| 和名 | 種類 |
|--|---|
|  <p style="text-align: center;">ヤマタニシ</p> | <p>県：準絶滅危惧</p> <p>県内各地の森林林床に生息するが、分布は散在形で個体数は比較的少なく、森林伐採により生息地が減少している。分類学的再検討が必要とされている種である。</p> <p>(出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2014-)</p> |

表16. 確認された魚介類

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|--------------------|--------------|--------|-------|-------|--------|
| | | 11月28日 | 5月11日 | 9月27日 | |
| 軟体動物門 腹足綱 (2目3科3種) | | | | | |
| マイマイ目 | | | | | |
| オナジマイマイ科 | ツクシマイマイ | ○ | ○ | | |
| 異鰓目 | | | | | |
| キセルガイ科 | キュウシュウナミコギセル | | ○ | | 県準絶滅危惧 |
| 中腹足目 | | | | | |
| ヤマタニシ科 | ヤマタニシ | | ○ | | 県準絶滅危惧 |
| 節足動物門 軟甲綱 (1目1科1種) | | | | | |
| エビ目 | | | | | |
| サワガニ科 | サワガニ | ○ | ○ | | |

表 17. 確認された主な野生生物（菌類）

| 和名 | 種類 |
|---|--|
|  <p data-bbox="427 663 612 692">ミヤマトンビマイ</p> | <p data-bbox="826 336 1414 524">夏から秋には針葉樹林の地際や切り株から発生する。分布の中心は寒冷地、高冷地である。きのこは単生または柄が分岐して数個の傘に分かれ、いわゆるマイタケ型となっている。表面の色は淡い茶褐色で、微毛がある。孔口は類白色からクリーム色。柄は中心生から偏心生、しばしば未発達。</p> <p data-bbox="826 560 1414 618">(出典:公益財団法人 農林水産食品産業技術振興会HP)</p> |
|  <p data-bbox="461 1223 579 1252">ウチワタケ</p> | <p data-bbox="826 898 1414 990">シイなどの広葉樹の枯れ木に生える。傘の表面には黄褐色、茶褐色の環紋がある。傘の裏の孔口は微細。有柄または無柄。</p> <p data-bbox="826 1025 1414 1084">(出典:国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所HP)</p> |

表 18. 確認された菌類

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|------------------|----------|--------|-------|-------|----|
| | | 11月28日 | 5月11日 | 9月27日 | |
| 菌類 (4目6科8種) | | | | | |
| チャワンタケ目 (1科1種) | | | | | |
| フクロシトネタケ科 | クルミタケ | | | ○ | |
| ヒダナシタケ目 (1科1種) | | | | | |
| ミヤマトンビマイ科 | ミヤマトンビマイ | | | ○ | |
| タマチョレイタケ目 (1科1種) | | | | | |
| タマチョレイタケ科 | ウチワタケ | | | ○ | |
| ハラタケ目 (3科4種) | | | | | |
| テングタケ科 | ガンタケ | | | ○ | |
| | テングツルタケ | | | ○ | |
| ベニタケ科 | ベニタケ | | | ○ | |
| ハラタケ科 | ノウタケ | | | ○ | |
| 不明種 (1種) | | | | ○ | |

(7) その他

1目1科1の環形類が確認された。

表19. 確認された主な野生生物（その他）

| 和名 | 種類 |
|---|--|
|  <p style="text-align: center;">シーボルトミミズ</p> | <p>大型な種類。P. F. vonシーボルトが日本で採集し、この標本をホーストR. Horstが1883年に発表した際にシーボルトに献名したものである。本州中部以南、四国、九州に分布し、山地に生息する。俗称ヤマミズ。現在までの最大の個体は体長45cm、太さ1.5cm、43gである。濃い青黒色をしていて生殖時には第14～16体節に環帯が生ずる。環帯上には背孔や剛毛はない。雌性生殖孔は第18体節の腹面両側に1対存在している。</p> <p>(出典:小学館 日本大百科全書【ニッポニカ】)</p> |

表20. 確認されたその他の生物

| 科名 | 和名 | 秋季調査 | 春季調査 | 夏季調査 | 備考 |
|--------------------------|----------|--------|-------|-------|----|
| | | 11月15日 | 5月11日 | 9月27日 | |
| 環形動物門 貧毛綱 ツリミズ目 (1目1科1種) | | | | | |
| フトミズ科 | シーボルトミミズ | ○ | ○ | | |

7 まとめ

今回の調査では、のべ 233 科 702 種の生物が確認された（表 2 1 参照）

表 2 1. 調査結果まとめ

| | 目 | 科 | 種 |
|-------|----|-----|-----|
| 植 物 | | 109 | 456 |
| 鳥 類 | 5 | 18 | 25 |
| 昆 虫 類 | 12 | 70 | 168 |
| クモ類 | 1 | 15 | 24 |
| は虫類 | 1 | 3 | 5 |
| 両生類 | 2 | 3 | 5 |
| ほ乳類 | 4 | 4 | 6 |
| 貝 類 | 2 | 3 | 3 |
| 甲殻類 | 1 | 1 | 1 |
| 菌 類 | 4 | 6 | 8 |
| そ の 他 | 1 | 1 | 1 |
| 合 計 | 33 | 233 | 702 |

また、16 種の希少生物が確認された（表 2 2 参照）。

表 2 2. 確認された希少生物まとめ

| | I A 類 (国) | I B 類 (国) | II 類 (国) | 準絶 (国) | その他 |
|-----|-----------|--------------------------|--------------------------|----------------------------|---|
| 植 物 | | アオカズラ【IB類】 ノヒメユリ【IB類】 | ツチグリ【II類】 ゴマノハグサ【II類】 | | トラノオズカケ【IA類】 カラタチバナ【IB類】、リンドウ【II類】 シバハギ【IB類】、サザンカ【準絶】 |
| 鳥 類 | | | | | オオルリ【準絶】 サンコウチョウ【準絶】 |
| は虫類 | | | | | ヒバカリ【準絶】 |
| 両生類 | | | | トノサマガエル【IB類】 ニホンイモリ【準絶】 | |
| 貝 類 | | | | | キュウシュウナミコギセル【準絶】 ヤマタニシ【準絶】 |

※ 表中各列のタイトルは環境省のレッドリストの分類を表し、【】内は、福岡県のレッドデータの分類を表す。

今回は、2 年度にわたって三池山地区の調査を行った。調査回数は各分野 3 回（地層・地質は 1 回）、16 種の希少生物を含む 702 種の生物を確認できた。